



# 箕面神経サナトリウム

(平成27年6月8日訪問)

平均在院日数668日(平成27年6月1日時点)

## 積極的な取組など

- ベッドごとにナースコールが設置されていた。
- デイルームやトイレに脱臭機が設置されており、臭いはほとんどしなかった。
- 精神保健福祉士が入院患者担当5名、デイケア2名、相談支援事業所2名と増員されていた。

## 前回の訪問(平成23年6月)から改善されていたこと等

- 前回訪問時、南棟2階では、各部屋の患者が病室のごみ箱のごみをデイルームの大きな袋に出していた。職員が大きな袋を持ってくると、患者が列になってその袋にごみを入れていた。南棟3階では患者から「4時頃に『ごみ回収です』とマイク放送があり、各部屋からごみ箱を各自が持って出る」との声があった。今回の

訪問ではそのようなことはなかった。

- 前回訪問時、各病棟のデイルームに全病棟の「院内散歩グループリスト」などが掲示されており、そのリストに参加する患者のフルネームが書かれていたが今回はそのような掲示物はなかった。
- 前回訪問時、全病棟で共用の面会室入口横に職員が2名常駐しており、院外外出をする患者のために扉の開閉をしたり、面会が終わると病棟に患者の迎えを呼ぶための連絡をしていた。この点は、今回も変わっていなかったが、この面会室内にパーテーションで仕切られた相談や面会用のスペースができ、病棟内にも面会室ができていた。
- 前回訪問時、公衆電話に囲いなどはなかったが、今回は電話の周りに囲いが設置され、周りから電話をしている様子が見えないようになっていた。
- 前回訪問時、洋式トイレは扉のかわりにカーテンが付いていて、カーテンの端は止めることができない



かったが、今回は鍵付きのアコーディオンカーテンになっていた。

● 前回訪問時、個室の扉には大きな窓があり、それが透明なガラスであるため、廊下から室内が丸見えだった点は、今回は他の病室と同様に窓を曇りガラスにして目線の高さに隙間10cmほどを残してスモークが貼られていた。その隙間にあわせた大きさの紙が上だけテープでとめてあり、それをめくると中が見えるように工夫されていた。

● 前回訪問時、病院側によると、ベッド周りのカーテンを閉めるのは患者の自由とのことだったが、患者にはそれが周知されていないようで、患者から「職員から『あまり部屋を暗くしないよう、カーテンはなるべく開けといて』と言われた。閉めると『ちょっと、開けとって下さいね』と声がかかるので開けておくしかない。1人になりたい時に、このカーテンを閉められたらありがたい」等

の声があった。今回は、カーテンを閉めている患者も開けている患者もあり、患者が自由に使用できているようだった。

● 多飲患者がいるため、デイルーム等には自由に飲めるお茶はなく、詰所に声をかけないと飲めなかったことについては、お茶はやかんにいれて、デイルームや詰所前に置かれていた。訪問時はおやつ時間でそれにあわせて、患者が持ってきた空のペットボトルに職員がお茶をいれていた。

● 前回訪問時、デイルームのテーブルに患者の名前が書かれたシールが全員分一律に貼られていたことについて、今回は一部の患者の名前だけが貼られていた。

● 前回訪問時の平均在院日数は578日だった。今回も平均在院日数668日(平成27年6月1日現在)と全国や大阪の平均と比べても長い。

## 病院全体

### 人権擁護委員会・意見箱

人権擁護委員会委員長は医師で、開催は月1回。意見箱は電話のそばに設置され、紙と鉛筆があった。月1回、人権擁護委員会の委員と事務部で回収する。

### 金銭管理

金銭管理料は1日150円。病室内にも患者ごとに鍵付きのロッカーがあり、さらにデイルーム内に別の貴重品用の鍵付きロッカー(1,000円/月)があった。

金銭の自己管理者は中央棟4階、南棟2階はそれぞれ約10名ずつとのことだった。病棟内には、金銭を自己管理したいときは主治医や看護師に相談するようという掲示があった。

### 退院支援

地域移行・地域定着支援事業を4名が利用中で2名が申請中だった。病棟内には医療相談室と精神保健福祉士についての案内が掲示されていた。どのような相談ができるかが例示されていた。

## 院外外出のための扉

全病棟で共用の面会室入口横に職員が2名常駐しており、院外外出をする患者のために扉の開閉をしていた。院内開放の患者はこの扉まで来ることができる。訪問時に15名ほどの患者がこの面会室を通過して行列になって外出した。お話しのできそうな方が多くいると思った。病棟でお話しをお聞きしたかったが時間内には戻ってこなかった。

## 病棟の様子

OTプログラムの予定や内容について詳しい掲示があった。病室は4人部屋が中心で2人部屋や個室もあった。トイレは和式と洋式があり、ナースコールが付いていた。病棟によっては扉が下から約10cm空いていたり、高さが約160cmのところもあった。

中央棟 3階 閉鎖 男性 精神一般 53床 15:1

ほとんど臭いはなかったが301号室前の廊下では少し便臭がしていた。詰所では患者ごとのひげそりの充電がされていた。

## 患者の声

「(手首の鍵を見せながら)鍵付きロッカーを使ってお金を管理している」「2人部屋でカーテンの仕切りがある」「食事はおいしい」「食事をお腹いっぱい食べたい」「食事はもう少しおいしくしてほしい。しょうゆやソースがない」「特に困って



いることはないが妻に会いたい」「誰も面会に来ないのが寂しい」「薬についての説明はあったかもしれない」「主治医はいい先生」「職員や主治医は丁寧」「職員さんは魅力的、看護師は怖い、座っているだけで怖い」「管理料等の値段が高い」「売店に週2回は行きたい」「薬が7錠。多い。薬は食事中に配られる」「21歳のときから数十年ここに入院している」「退院の話は出ていない」「80歳。ここには数年ぐらい入院している」「治療計画はない」

### 中央棟 4階 閉鎖 女性 精神一般 59床 15:1

女性の入院時の受け入れ病棟だが、10年以上入院している患者もいて、高齢の認知症の患者の割合が増えているとのことだった。

デイルームも病室も光が多く入り、清潔な印象だった。消毒臭や便臭はなかった。デイルームではテレビを見ている患者や雑誌を読んでいる患者、ノートに書き物をしている患者など、10名前後の患者が自由に過ごしていた。テーブルには食事の際の注意書き『食べるときはゆっくりよくかんで水分もわずれずに、ものどにつまったらすぐに職員を呼んでね』が貼られていた。椅子の脚にテニスボールがつけられていた。

以前、喫煙室が面会室になっており、4人掛けのテーブルが2つあった。デイルーム側に大きな窓があったが目隠しになるシールが貼られており、外から見えにくくなっていた。面会室内にインターホンがあり、看護師によると「何かあった時に職員を呼べるように」とのことだったが、インターホンが使われることはほとんどないらしい。

マージャン大会、献立表、売店のお買い得品、売店に行ける曜日と時間(13:30~14:30)についての掲示があった。

車いすの患者がテレビ前から食事の際の席に移動したいと看護師に伝えると、看護師は「もうちょっとやからテレビ見といて。(おやつの間まで)あと15分あるから、15分はじっと待ってなあかんねん」と言った。それでも患者は移動を希望したため、看護師は移動を手伝っていた。

### 患者の声

「主治医に言われて心理の人と定期的に話しをしている。他の病院にいたときはそのようなことはなかったが、この病院ではその時間があり助かっている」「子どもたちが家族で定期的に面会に来てくれる。来るとすぐに病院から連れ出して食事に連れて行ってくれる」「入院して13年。退院したくないわけではないけど、家のことが心配。ご飯の用意とかこの美容院に行けばいいのかとか」

### 南棟 2階 開放 男女 精神療養 60床

デイルームでは数名の患者がテレビを観たり、職員に介助されながらおやつを食べていた。15:45になるとラジオ体操が放送され、体操をデイルームでする人、廊下でする人たちがいた。

### 患者の声

「売店は週1回行っている。外出は自由にできない。外の病院に行くときはタクシー代がかかる」「精神保健福祉士に相談している。退院したいけど、いろいろ心配なことがあるから出たくない(退院したくない)。看護師が1ヶ月のスケジュールをカレンダーにしてくれるから予定がわかりやすい」「シーツ交換は自分でしなくてよいのはわかっているが自分でしている」「毎週末に友人と出かけている」

### 南棟 4階 閉鎖 男性 精神療養 60床

### 患者の声

「点滴したままほったらかしにされる。呼んでもなかなか来てくれない」「体育館では盆踊りやスポーツをする」「入院して7年」「21年間入っている」「職員の言葉は丁寧」「お金の管理は自分でしている」「特に困っていることはない」「主治医の説明がよく分かる。職員も主治医も言葉遣いは悪くはない」

### 検討していただきたい事項

### 退院に希望の持てる情報提供や支援を

(1) 今回も、治療計画書や退院の目的について、患者から、「そういう話は聞いたことがない。自分から聞かないと医師から言われることはない」「入院して24年になるが、退院に向けた話は誰からも聞かない。ケースワーカーは知らない」「『きちがい』扱いを受けていると感じる。何をしても拒否、否定される」「退院の道筋、全然知らんのです。知っても退院先の住居があらへん」等の声があった。(病院:昨年度より精神保健福祉士を増員し、病棟は2名体制から5名体制になっています。入院時の診察から同席し、退院に向けての相談を含め各種相談をできる事を積極的に患者と家族には説明しています。又各患者に担当制を採り、患者及び家族面談の回数も着実に増えており、その際に退院に向けた制度や地域の資源について、説明しています。再度患



者及び家族には、周知徹底に努めます。)

(2) そして、こうしたことを含む治療方針や治療計画が患者に説明されるべきではないだろうか。(病院: 患者に対する治療方針、治療計画について、理解されるまで繰り返し親切で丁寧な説明を行っていき、患者との信頼関係の構築に取り組めます。診察・面談を通して、退院に向けての希望と意欲を導き出すような言葉掛け、働きかけを従来以上に努めます。)

(3) また、訪問後の意見交換で病院側から「(ある病棟の長期入院の患者について)退院できる患者はほとんどいない」との意見があった。患者が退院について希望と意欲を持てるようにする積極的なかわりが求められていると感じた。検討をお願いしたい。(病院: 精神保健福祉士の増員により、中心となり退院支援に取り組んでいます。特に長期入院患者様が多い療養病棟では今年度から退院支援を病棟目標に掲げています。主治医、看護師、精神保健福祉士が協力し、カンファレンス等を通し外出支援、退院前訪問指導、精神障害者地域移行、地域定着支援事業や各種制度の活用、地域機関との連携により退院支援に取り組んでいます。今後も継続して長期入院患者の退院支援に取り組んでいきます。)

## 入院時のしおり

1ページに1日のタイムスケジュール、面会時間、新聞購読や院内売店等の説明があり、2ページ目は持ち込みや商品の貸し借りなど禁止事項が9個、4~5ページ目には持ち込みに関する規則が書かれていた。入院時のしおりには管理の目線ばかりではなく、サービスを提供する側として患者や家族に伝えたいこと(例: 入院治療の説明や相談窓口、患者の権利など)も記載することを検討していただきたい。(病院: 人権擁護委員会として、変更を考えていましたが、昨年度は病院案内の変更の検討を行い、今年度は入院のしおりの検討に入る予定でした。早急に、他病院のものも参考に改正に取り組みたいです。)

## 診察場所

診察が詰所内で行われていた。(病院: 診察は、診察室で行うこととしています。今後、患者が安心して診察を受けられるよう配慮に努めます。)

## 職員研修について

前回と同様、今回も、患者から、職員は「優しい」「丁寧」という声がある一方で、「言葉遣いや態度がきつい職員もいる」「看護師は座っているだけで怖い(理由は話してもらえな

かった)」との声も聞かれ、前回から改善された印象を受けなかった。接遇研修は年1回、コンプライアンスと人権について行い、参加できなかった職員には伝達研修をしているとのことだったが、職員の接遇についての研修をさらに積み重ねていく等、基本的な姿勢の管理・指導の徹底をお願いしたい。(病院: 職員間での接遇への取組意識にまだまだ格差があることと思われます。今回の意見を教育・研修委員会にも進言し、研修会を通じて、今一度接遇の重要性を理解させ、職員個々の接遇レベルの向上に病院全体で取り組んで参ります。)

## 入浴について

入浴回数が週2回だった。また、夏はシャワーだけとのことだった。患者からは「夏も浴槽に入りたい。ゆっくりしたい」との声があった。(病院: 夏季に週3回(浴槽利用)、冬季に週2回の入浴を実施しています。入浴日以外での入浴希望者には、シャワー浴で対応しています。尚、夏季における希望者については、シャワー浴で毎日の入浴が可能としています。)

## 意見箱について

投書箱に入れられた意見への回答がなかった。意見箱への投書に対しては原則として回答を掲示することを検討していただきたい。(病院: 今年度より、1階看護部長室前のホワイトボードに「みなさまからの声」~提案箱に入れられた、みなさまの声からの返答です。~と印字して、返答内容を掲示しています。病院(担当委員会人権擁護委員会)として掲示することを義務化することを考えています。(略)提案箱のご意見が、少しずつですが、療養環境の整備に反映してきているものの、まだまだ不十分ですので、引続き委員会機能を強化していこうとも考えています。)

### 精神保健福祉資料より(平成26.6.30時点)

312名の入院者のうち統合失調症群が249名(80%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が27名(9%)、気分障害が20名(6%)。入院形態は任意入院166名(53%)、医療保護入院146名(47%)。在院期間は1年未満が46名(15%)、1年以上5年未満の患者が82名(26%)、5年以上10年未満の患者が55名(18%)、10年以上20年未満が73名(23%)、20年以上56名(18%)。



ほぼは 大阪府内の精神科病床のある  
全病院への訪問活動の報告です。

210ページの  
のうち 192ページ

認定 NPO  
大阪  
精神医療  
人権センター  
30周年

A4 サイズ/210 ページ  
2,000 円

この本の使い方はいろいろ

- 「大阪府内の精神科病院の情報を知りたい」
- 「病院訪問活動の視点を知りたい」
- 「実習前に精神科の療養環境について知っておきたい」
- 「自分の勤務する病院を見つめなおしたい」

目次

- ・大阪における精神科病院への訪問活動のうづりかわり
- ・療養環境サポーター制度について
- ・各病院の訪問報告
- ・各病院の職種別職員数一覧表
- ・精神科病院訪問ボランティアへのインタビュー
- ・入院中の精神障害者の権利に関する宣言



療養環境サポーター  
最新報告

## 人権センターニュース毎号2病院掲載中

### 入会やご寄付のおねがい

私たちの財政的基盤の中心は「会費」や「寄付」となります。活動を維持し、充実させるためには、皆様からの支援が必要となります。



電話・面会相談では相談者の方からお金を頂いておらず、訪問活動（療養環境サポーター制度）でも大阪府等から委託費用の支払はありません。特に面会活動の拡充のためには、交通費（1回2,000円～4,000円／2名分）や複数の事務局スタッフの人件費（年間約500万円）が必要となります。

### 会費・寄付の申込と支払方法

ご寄付もいつでも受付けています。

会員種別  
年会費

賛助会員	
障害者	1,000 円
個人	3,000 円
団体	5,000 円

特別協力会員  
& 寄付  
大募集

特別協力会員	
A	10,000 円
B	30,000 円
C	50,000 円

#### 会員特典

人権センターニュースの送付 2か月に1回 年間6冊

人権センターニュースは、「声をきく」ことを重要な価値観とする私たちだからこそ発信できる情報が盛りだくさんです。また、病院訪問報告書も毎号2病院掲載しており、大阪府内の病院の療養環境の改善状況等を知ることができます。当事者・家族の皆様だけでなく、精神科病院に勤務する皆様や地域精神医療保健福祉にかかわる皆様にも必見です。

メルマガ配信 1か月に1回から2回

精神医療及び精神保健福祉にかかわる最新ニュースや私たちの講演会・セミナー情報をいち早くお知らせします。

活動参加のための情報提供

面会活動だけでなく、講演会の企画・運営や広報誌・SNSによる情報発信のサポート等いろいろな形で参加できます。

※面会活動は養成講座の受講が条件となります。



#### 寄付特典

ご寄付をしていただく場合、確定申告によって『税額控除』を受けることができます。

#### 税額控除とは？

※確定申告は最寄りの税務署にて相談ください。

※大阪府（堺市を除く）に在住の方は、地方税分も控除されます。

※控除には限度額があり、実際の税額はケースにより異なります。

寄付金 1 万円の時

所得税額 -3,200 円

実質負担 6,800 円

寄付金 5 万円の時

所得税額 -19,200 円

実質負担 30,800 円

10,000 円のご寄付で、2～3名の面会が可能になります。

郵便払込	口座番号 00960-3-27152 加入者名 NPO 大阪精神医療人権センター
銀行振込	三井住友銀行 南森町支店 普通 1485805
現金	講演会会場・事務所にて
クレジットカード	ウェブサイトのみ



こちらより申込書をダウンロードできます  
検索 大阪精神医療人権センター  
<http://www.psy-jinken-osaka.org/>  
入会・寄付は WEB でも手続きできます。

クリック



## 認定 NPO 法人大阪精神医療人権センター

お問い合わせ

〒530-0047 大阪市北区西天満 5-9-5 谷山ビル 9F

TEL 06-6313-0056 FAX 06-6313-0058 メール [advocacy@pearl.ocn.ne.jp](mailto:advocacy@pearl.ocn.ne.jp)